

(様式6)

小川 将太 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題目 Prevalence of rear seat belt use among pregnant women in a suburban area of Japan

(日本の郊外における妊婦の後部座席シートベルト使用の普及率)

The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 44 : 117-123, 2018

Shota Ogawa, Hiromitsu Shinozaki, Kunihiko Hayashi, Masahiro Itoh,

Masayuki Soda, Takashi Kameda, Kiyoshi Ozawa, Hidemi Yokota, Kiyoshi Kamioka,

Takashi Minegishi

論文の要旨及び判定理由

従来から、交通事故における妊婦の外傷予防には3点式シートベルト装着が重要であることが示されているが、これまでの調査は妊婦が運転席で運転をする場合の調査であり、妊婦が後部座席に同乗した場合のシートベルト着用の実態調査はほとんど行われていない。本研究では、妊婦の後部座席シートベルト着用の実態を調査し、シートベルト着用に影響を及ぼす因子を検討した。研究デザインは横断研究（観察研究）で、日本の郊外に在住の1,546名の妊婦に対して無記名自記式質問紙を用いてアンケート調査を実施した。本研究により、妊娠前も妊娠中も後部座席のシートベルトをいつも着用している妊婦は20%未満であり、約30%の妊婦は妊娠前も妊娠中も後部座席のシートベルトを全く着用していないことが明らかになった。多変量解析の結果、「年齢」、「妊娠中の正しいシートベルト着用知識」、「妊娠中のシートベルト着用義務の認識」、「妊娠前からの運転席でエンジンをかける前にシートベルトを着用する習慣」が妊娠中の後部座席シートベルト着用に関連することが明らかになった。但し、本研究におけるアンケート調査が修士課程在学中に実施されていること、また、本論文と平成26年度に提出された修士論文が類似していることが厳しく指摘された。そこで、参考論文も含めた研究内容の評価を行い、博士課程における本研究に関連する一連の研究結果は、妊婦の交通外傷を未然に防ぐための適切な指導につながることを期待できると判断した。したがって、本研究は今後の保健学の発展に寄与するものと認められ、概ね、博士（保健学）の学位に値するものと判定した。

(審査年月日) 平成30年12月26日

審査委員

主査 群馬大学大学院教授  
看護学講座 大山良雄 印

副査 群馬大学大学院教授  
看護学講座 岡美智代 印

副査 群馬大学大学院教授  
看護学講座 吉田亨 印

参考論文

1. The characteristics of pregnant women who use rear seats and the factors associated with rear seat belt use in a suburban area of Japan

(日本の郊外における後部座席を使用する妊婦の特徴と後部座席シートベルト使用の関連因子)

Journal of Women's Health, Issues & Care 2018, 7:5. DOI: 10.4172/2325-9795.1000321

Ogawa S, Hayashi K, Itoh M and Shinozaki H

最終試験の結果の要旨

対象施設のセレクションバイアスについて、原著論文における考察の意義について、および保健学領域における本研究の意義について

試問し、概ね満足すべき解答を得た。

(審査年月日) 平成30年12月26日

試験委員

群馬大学大学院教授 看護学講座	大山良雄	印
群馬大学大学院教授 看護学講座	岡美智代	印
群馬大学大学院教授 看護学講座	吉田亨	印

試験科目

対象施設のセレクションバイアスについて	合
原著論文における考察の意義について	合
保健学領域における本研究の意義について	合